

**憲法しんぶん 速報版**  
 発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007  
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2020年11月5日(木)

NO. 1114号

本号3頁

# 「平和といのちと人権を!11・3大行動 一憲法が生きるコロナ後の社会」開催!

1946年11月3日に日本国憲法が公布されましたが、その11月3日(火)に、全国各地で集会・デモ・宣伝行動など様々なとりくみが行われました。国会正門前では、「平和といのちと人権を!11・3大行動」＝憲法集会が開催され、3000人が参加しました。主催は総がかり行動実行委員会。



司会の古今亭菊千代さんの進行で行われ、冒頭の主催者挨拶で、共同代表の高田健氏は、日本学術会議への政治介入で菅政権の本質が早くも現れたと指摘し、「市民と野党の共闘で菅政権を打倒し、政権交代を実現しよう」と呼びかけました。

駆けつけた立憲民主党、日本共産党、社民党、沖縄の風の議員が挨拶。共産党の山下芳生氏は、大阪での都構想を断念させたたたかいを報告し、市民が力を合わせれば政治は変えられる、力を合わせ安倍政権より危険な菅政権を倒そうと訴えました。

その後、「コロナから見えてきた社会矛盾から」とのテーマで、格差問題で瀬戸大作氏、差別問題で朝鮮学校の学生、憲法問題で清水雅彦氏、教育問題で佐野通夫氏、医療問題で伊藤真美氏、女性問題で北原みのり氏が、各分野から発言しました。清水氏は「菅政権は自助を強調し、生存権を無視している」、伊藤氏「自助・自立は人の手を借りて成り立つものであり、まずは公助が大事です」、北原氏は「女性が死にたくなる社会に未来はありません。性差別に本気で向き合ひましょう」とスピーチしました。

この大行動の前には、同じ国会正門前で「アベ政治を許さない」と書かれたポスターを掲げる「3の日行動」が行われ、140人が参加しました。

また、大行動後には同じ場所で、安保保障関連法に反対する学者の会が主催し、日本学術会議会員の任命拒否に抗議する集会が開催されました。

## 安倍前首相、父親の墓前で改憲誓う? 一安倍なき「安倍改憲」阻止に全力を!一

安倍前首相は、辞任後初めて地元の山口県に入り、憲法改正をめぐって、『安倍政権の間は改正しない』という野党の言い訳は、もう通用しないと指摘し、議論を前に進めるために、自らからも努力を尽くす考えを示しました。

安倍氏は1日、退任後初めて地元の山口県に入り、長門市にある父親の墓参りをしました。そのあと、記者団に対し、「7年8か月、総理大臣の職に全力を尽くしたことや、今後は一議員として地域の発展のためにも尽くしていくことを報告した」と述べました。

そして、今後の政治活動に関連して、安倍氏は「野党は、『安倍政権の間は、憲法改正はしない』と言っていた。そもそもおかしい理論だが、今は、もう菅政権なので、その言い訳も通用しない」と発言しました。そのうえで「憲法について議論すべきだというのが多くの国民の民意であり、こ

れに伝えていくのが国会議員の職責ではないか。そういう機運を高めていくために私も努力していきたい」と、これまでと同様の発言を繰り返しました。

## 改憲を許さなかった国民の思いを真摯に受け止め、改憲断念を

相変わらずの安倍前首相ですが、改憲を許さなかった国民の思いを真摯に受け止め、改憲を断念すべきです。振り返りますと、安倍改憲は、「何でもいいから変えたい」という「改憲のための改憲」でした。現憲法のどこが悪く、どう変えるという根源的な議論を呼びかけることは全くしませんでした。そして、国の最高法規、条文や議論の蓄積を都合よくねじ曲げ、平然と無視して解釈改憲をすすめました。さらに、丁寧な議論を通じた幅広い合意を形成する考えなど全く見られませんでした。これらが、「安倍政権下での改憲反対」との国民の不信を深めました。

間違いなく、私たちが取り組んだ3000万人署名、改憲発議反対緊急全国署名等の運動で、「安倍政権下での改憲反対」の世論が広がり、国会で改憲反対でたたかう野党共闘を支援、憲法審査会での改憲案の提示も改憲論議も許さなかったと思います。しかし、安倍改憲を振り返ると、ある意味では、安倍首相自身が安倍改憲を失敗させたといえるのではないのでしょうか。

## 福島 汚染水放出「異議あり」59自治体のうち41で意見書採択

政府が東京電力福島第1原発から出るトリチウム(3重水素)を含む汚染水の海洋放出方針を早期に決定しようとしていることに、福島県内で反対や慎重な姿勢を求める声が広がっています。

海洋投棄に反対や慎重な扱いなどを求める意見書が、これまで県議会と県内59市町村のうち41市町村議会(約7割)で可決されました。ほか請願趣旨を採択したのが一つの議会です。

地元新聞は、放射能汚染水問題を連日のように1面トップで扱うようになりました。福島県労連や民主団体などをつくる、ふくしま復興共同センターや、市民組織なども「海を汚すな」「政府は勝手に決めるな」などと宣伝し、反響が強まっています。

24日、福島市のJR福島駅前通りで、県内の青年組織・DAPPE(ダッペ、平和と平等を守る民主主義アクション)が呼びかけた緊急街頭宣伝が行われました。



漁師歴53年の男性は「来年春から本操業に戻ろうと準備が始まり、やっと本格的に漁ができるかと気持ちを奮い立たせていた矢先の海洋放出の動きだ」と、怒りをぶちまけ、「試験操業など、われわれの9年半の努力は何だったのか。海が汚されると、われわれは生活できなくなる。漁師の道に引き込んだ3人の息子たちの人生を何と考えているのか」と訴えました。

街頭宣伝では、「原発のない福島を! 県民大集会」の実行委員長、ふくしま復興共同センター代表委員、県市民連合幹事も海洋放出反対を強調。日本共産党の高橋千鶴子衆院議員、立憲民主党の金子恵美衆院議員、社民党の紺野長人県議が激励のあいさつをしました。高橋議員は「海洋放出反対、地上タンクでの保管を継続させるため、私たちも頑張る」と呼びかけました。

政府は、「廃炉・汚染水対策関係閣僚等会議」を開催して決定しようとしています。正式決定すれば、東電が具体的な計画を策定し、原子力規制委員会の審査を経て、準備工事などが実施されます。同原発には処理未完了を含め123万トン以上の汚染水がたまり、2022年秋ごろ満杯になる見込みで、政府はタンク保管継続に背を向け、海洋放出の決定を急いできました。10月中旬、政府は汚染水を薄めて海洋放出する方針を同月中にも決定すると明らかにし、その後、月内の決定は延期。しかし、早期決定の姿勢は崩していません。

## 宮城憲法会議 2021年度総会を開催

## 共同を広げ、憲法学校・宮城県民集会等の成功に向け奮闘!

憲法改悪阻止宮城県各界連絡会議(宮城憲法会議)は29日、仙台弁護士会館で2021年度総会を開催しました。参議院議員の石垣のり子氏が立憲民主党として初めて参加し、来賓あいさつを行いました。石垣氏は、菅首相の日本学術会議の会員6名の任命拒否問題で、「総合的、俯瞰的に判断」と発言しながら、「名簿を見ていない」と語ったことを取り上げ、日本学術会議法、憲法23条の学問

の自由に違反する行為であると厳しく批判し、立憲民主党として徹底して追及していくと述べました。また、自身が所属する農林水産委員会の問題として、農家の種取りの権利を奪う種苗法「改正」案の問題点等を指摘しました。

次に、「中央憲法会議からの報告」として、オンラインで参加した憲法会議事務局長の高橋が報告を行いました。菅首相が挙党体制で、また国民民主党への働きかけを強め野党分断で、改憲を行おうとしていること等を指摘。そして、7年8ヶ月の安倍改憲策動と市民と野党のたたかいを報告し、「安倍なき『安倍改憲』の阻止、菅政権打倒に向け、奮闘し合おう」と呼びかけました。

その後、鶴見聡志事務局長・弁護士が活動報告・方針の提案と会計報告を行いました。2020年度の活動報告では、①憲法学校を2回開催したこと、②宮城県護憲平和センターや憲法を守る市民委員会とともに「5・3憲法を活かす宮城県民集会」を開催する予定がコロナで中止したものの、2020年憲法記念日アピールを出し、記者会見を行ったこと、③憲法会議が呼びかけ人の一人として結成した桜を見る会を追及する弁護士の会・宮城や県民の会・宮城が活発な活動を行ったこと等を報告。また、方針では、①憲法学校の開催、②市民に呼びかけ募集する「市民の憲法行事」の実施、③「5・3憲法を活かす宮城県民集会」開催の3本柱を中心に据え、多団体との協力を強め、憲法発議阻止に向け世論を一気に高めること。また、署名、学習活動、憲法会議発行の「敵基地問題リーフレット」の普及、さらに広報活動の充実等を提案しました。

これを受けた討論では、①改憲発議反対の署名に取り組んでいる学術会議問題で怒っている人が寄って来て署名してくれる、②憲法会議発行の月刊憲法運動は勉強になるし、憲法しんぶん速報は励ましになるので、方針に位置付けてほしい。③憲法会議として憲法学習をきっちりとやることが重要であり、憲法会議として「全国的な学習運動」を呼びかけてほしいとの発言がありました。

最後に、提案された報告・方針、会計報告・予算案、そして役員が参加者の拍手で承認されました。

## 各地のとくくみ

### **石川** 「怒りの昼デモ」を約30人。「改憲許さない。平和憲法を守れ！」

石川憲法会議と石川県憲法共同センターは28日、金沢市で憲法と民主主義を守る政治の実現を求める「怒りの昼デモ」を約30人で行いました。日本共産党の佐藤正幸県議が参加しました。

出発前のあいさつで石川民医連の佐々木均事務局次長は、コロナ禍で仕事を失い病気が悪化し、無料定額診療でいのちをつないだ派遣労働者の男性(40代)の事例を紹介。「国民の生活が大変な時に、自助などと言っている場合ではない」と菅政権を批判し、「個人の尊厳が生かされる社会に変えなければならない」と訴えました。

繁華街に向けて先導車が「いのちとくらし守れ。改憲許さない。平和憲法を守れ」の声をあげました。デモ参加者は「9条壊すな!」「戦争させない」「学問の自由への政治介入は許しません」のパネルを掲げてアピールしました。

### **岩手** 3野党がJR盛岡駅前で合同街頭演説 聴衆と「がんばろう」を三唱

日本学術会議の会員6人の任命を拒否する菅政権と正面から対決し、「来る解散・総選挙で岩手県から政権交代を」と、県内3野党は31日昼、盛岡市のJR盛岡駅前で合同街頭演説会を開きました。

野党統一候補の立憲民主党の横沢高穂参院議員は、コロナ禍の下でも大企業と富裕層を優遇しようとする菅政権から、野党共闘で国民の懐を温める政治へ転換すべきだと強調。社民党県連合の小西和子代表は、菅首相が言う「自助」の押しつけでは一人親世帯の貧困は解決しないと指摘し、「今こそ支え合う社会が必要だ」と語りました。

立憲民主党(野党統一候補)の木戸口英司参院議員は「学術会議法の解釈を勝手に変える菅首相に、新たなファシズムを感じている」と警告。民主主義の危機に国会論戦で立ち向かうと訴えました。

日本共産党県委員会の斉藤信副委員長は、学術会議の独立性や学問の自由は、科学者と国民が戦争に巻き込まれた教訓を踏まえたものだと力説。国会答弁がボロボロの菅政権をさらに追い詰め、総選挙で政権交代を実現するために「市民と野党の共闘に誠実に取り組む」と表明しました。

演説後、弁士らは聴衆と「がんばろう」を三唱しました。